

さいばいだより

平成 20 年 6 月

第 43 号

鳥取県栽培漁業センター・(財) 鳥取県栽培漁業協会

鳥取県東伯郡陽琴浜町大字石脇 1166 番地

TEL 0858-34-3321

栽培漁業センター・栽培漁業協会の取組み方針(平成 20 年度)

この 4 月から再び栽培漁業センターで皆様にお世話になることになりました。よろしくお願ひします。

10 数年前のこのページで、中国をはじめ世界的に魚が食べだされており、21 世紀には再び水産の時代がやってくる、と書きました。景気の低迷などにより魚価が伸びないのは想定外でしたが、大きな流れとしては変わっていないようです。

一方、21 世紀は漁業も環境の時代。水産業・漁村には「水産物の安定供給」という本来的役割に加えて、漁獲により窒素・リンを持ち出し、富栄養化を防ぐ「環境保全機能」、海難救助や出漁中に海を監視する「国民の生命財産保全機能」など、漁業の持ついくつかの公益的機能も評価されてきています。

栽培漁業センターでも、従来の栽培漁業や資源管理に加え、赤潮対策や藻場の再生、あるいは湖沼や河川の漁場機能の回復など漁場環境

対策に取り組んでいます。

本県の沿岸漁業は、これからも漁船漁業が中心でしょうが、こここの燃油高騰などをみても、省エネや環境への負荷の少ない漁業に加えて、計画的に生産できる鳥取型の「つくり育てる漁業」の推進がより一層重要となってきています。種苗放流や漁場の管理など皆さんの努力で、アワビは 1 億円産業に近づいてきましたし、サザエは 1~2 億円産業となっています。今一度、皆さんの前浜に目を向けてみてください。まだまだお宝は埋まっているはずですよ。

大型スーパーの食料品売場にはいろんな地域からたくさんの魚介類が並んでいますが、鮮魚売場では地元魚が増えてきました。新鮮で安全な魚は少々高くても人気があるんですね。新鮮で安全な美味しい鳥取の魚を生産・供給するため、皆さんと一緒に頑張ります。

(栽培漁業センター所長兼栽培漁業協会専務 渡部 俊明)

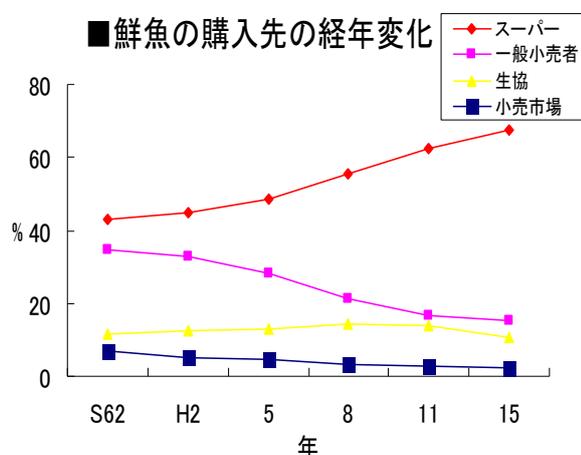


図 1 スーパーマーケットのシェアは7割に増大

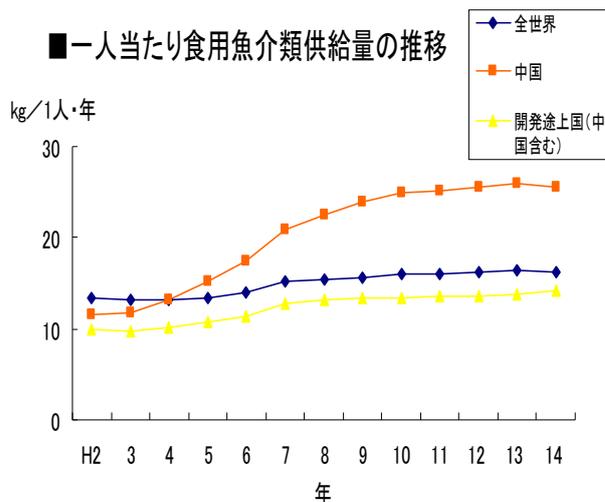


図 2 中国の一人当たりの消費量は大幅に増大